

呉のまちは、どのようにしてできたのか？
 〈まちなかにある昔の写真をみつけて歩き、今の呉のまちを発見しよう〉

呉まちあるき map

つなぐ、はじまる、呉まち物語

●平成28年度入船山記念館企画展「軍港・呉のメインストリート」関連イベント

呉まちあるき map の使い方

期間／平成28年10月22日(土)～平成28年12月23日(金・祝)まで



1 企画展を観に、入船山記念館に行こう!

入船山記念館では、企画展「軍港・呉のメインストリート」を開催しています。呉の中心市街地の形成について紹介し、明治・大正・昭和初期に撮影された繁華街の写真を展示しています。呉のまちはどのように変化したのかな?



2 マップを片手に、呉のまちを歩こう!

入船山記念館での企画展「軍港・呉のメインストリート」で展示中の写真を含む9点の写真が、呉のまちで撮影された場所付近に展示されています。マップを片手に、写真が展示されている9か所(A～I)を探してみましょう。呉のまちはどのように変化しているのかな?



3 写真を巡って、呉のまちの魅力を探ろう!

マップに掲載の写真が展示されている9か所(A～I)には、順番につなげるとある人物の名前になる「キーワード」と「まちを楽しむためのヒント」があります。また、マップに掲載されている9か所以外にも、まちの中に写真が展示されているかも。まちの人たちとも話してみましょう。呉のまちの魅力は何か?

キーワードを集めよう!

付属の解答用紙に9文字のキーワードを記入して、アンケートに答えよう。指定の交換場所に解答用紙を持って行くと、もれなく記念品をもらえるよ。

呉のまちを観察してみよう!

マップに掲載している写真を展示している9ヶ所には、「まちを楽しむためのヒント」があるよ。ヒントを読んで、呉のまちをもっと観察してみよう。

呉のまちの人に聞いてみよう!

お店の中にも写真が展示されているよ。レンガがモチーフのフォトスタンドが、その目印。お店の人に写真のことや、呉のことについて話してみよう。

呉のまちの魅力を発信しよう!

まちの写真を撮ったら、ハッシュタグ「#呉まち物語2016」をつけて、SNS(フェイスブック、ツイッター、インスタグラム)に、投稿してみよう。

※記念品の交換場所は、入船山記念館と、くれ協働センター(呉市役所1階)です。

まちあるきイベント開催! / 平成28年 10/22 13:00～

入船山記念館で企画展「軍港・呉のメインストリート」を鑑賞し、実際にまちの中に展示している「まちなか写真展」を巡りながら、呉のまちの魅力を探索する「まちあるきイベント」を開催します。

- 日 時 / 2016年10月22日(土) 13:00～16:30
- 対 象 / 呉のまちの魅力をもっと見つけたい人、まちづくりを学ぶ学生など
- 定 員 / 10名程度
- 準 備 物 / スマートフォン、デジタルカメラ



「つなぐ、はじまる、呉まち物語」とは、入船山記念館での〈学び〉と、まちの中での〈出会い〉をつなげて、地域内外の人と一緒に、呉のまちの魅力を創造するプロジェクトです。平成28年度は、入船山記念館での企画展「軍港・呉のメインストリート」の関連イベントとして、入船山記念館とレンガイロプロジェクトが協働で実施します。

つなぐ、はじまる、呉まち物語

入船山記念館 Irifuneyama Memorial Museum

レンガイロ KURE RENGAIRO PROJECT

●入船山記念館
 〒737-0028 広島県呉市幸町4-6
 TEL 0823-21-1037 FAX 0823-26-6270
 URL <http://irifuneyama.com/>
 Mail info@irifuneyama.com

●レンガイロプロジェクト
 (特定非営利活動法人 呉サポートセンターくれシエンド)
 URL <https://www.facebook.com/rengairoproject/>
 Mail rengairo2016@gmail.com

呉のまちは、どう変わってきたのか。

●市街地の形成



呉軍港全図 明治期
 布地にロウを塗ってから描かれている。平成28(2016)年4月25日、旧軍港四市(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)によるストーリーが日本遺産に認定。この「呉軍港全図」も、ストーリーを構成する資料の一部と認定された。

軍港設置決定の約1年前から、呉での用地買収が始まりました。鎮守府建築委員が任命されると、東京にて鎮守府市街地の建設計画を立案。明治20年の「呉港市街割之図」から、碁盤目状に区割りされたことがうかがえます。

この市街地形成にあたり、まずは山の手に進む国道と瀬戸内海に並行する県道が建設されました。鎮守府工事の開始にともない、新道の開通や県道の改修が行われ、家屋も建築されるようになります。

呉港には全国から多数の工夫が集まっていたことから、広島県は明治20年4月に「呉港人夫小屋規則」(広島県令乙第五号)を公布。人夫小屋を建設するときは係官吏に申し出て位置の検査を受ける等、取締りを開始しました。同年5月には「呉港家屋建築制限法」(広島県令乙第九号)を公布して町割を示し、境界を定め、道路・下水等について規制を設けました。

明治35(1902)年10月の市制施行後、道路や橋梁等の整備がさらに進み、明治末期には、市街地を路面電車の走る近代的な都市となりました。

●呉線の開通

日本最初の鉄道が走ったのは、新橋(東京)・横浜間で、明治5(1872)年のことでした。

2年後の明治7(1874)年5月には大阪・神戸間の鉄道が開通。神戸よりさらに西側の鉄道敷設を目的として、山陽鉄道株式会社が発起され、建設が進められました。

日清戦争開戦直前の明治27(1894)年6月には、広島に到達。7年後の明治34(1901)年には下関までの全区間が開通しました。山陽鉄道が広島まで到達すると、呉においても地方有力者が中心となり、鉄道敷設計画が立てられ、呉鉄道株式会社が設立されました。広島駅を起点として、海田・矢野・坂・吉浦を経由して呉にいたる14マイル(約22.5キロメートル)の軌道を敷設しようとしたのです。

広島と呉とを結ぶ鉄道は軍事面から重要視されていたことから、政府は民営ではなく官設鉄道として明治34(1901)年5月に工事を開始しました。

約2年8ヶ月で呉線は完成、明治36(1903)年12月27日に呉駅において盛大な開通式が開催されました。同日、午前9時50分に広島駅を発車した蒸気機関車は、午前11時頃呉駅に到着。明治37(1904)年の乗車賃金は3等で呉駅から吉浦駅まで4銭、天応駅8銭、坂駅16銭、矢野駅18銭、海田市駅21銭、広島駅27銭。呉・広島間の運行は1日上下6本、所要時間は約1時間でした。



明治後期の呉駅(呉市文化スポーツ部文化振興課所蔵)明治40年前後



吉浦村に続く呉線(呉市文化スポーツ部文化振興課所蔵)明治36年頃

●路面電車の開通

路面電車は、明治28(1895)年、京都で初めて開通しました。翌年、呉市において計画されましたが、道路や橋梁が未整備であったことから断念。路面電車のかわりに馬車鉄道が計画されました。しかし、動力源が馬車から電車に移行しつつある時期であったため、再び路面電車を計画することとなります。明治41(1908)年に呉電気鉄道株式会社が発足、機動建設工事に着手しました。翌年には、西本通り3丁目の国鉄踏切から本通り9丁目まで、約2.21キロメートルの路線が完成。10月31日に営業運転を開始しました。これは、広島県内初の路面電車でした。

同日、二河橋東詰にある呉電気鉄道株式会社の用地内にて、開通式が開催されました。翌日の『芸備日日新聞』には、開通式の模様掲載されています。開通式には海軍工廠長、参謀長、水雷団長等の海軍関係者も来賓として出席、来賓には記念の絵はがきが配付されました。



二河橋上の路面電車 明治42(1909)年10月31日



明治後期の堺橋

●繁華街の登場 本通りと中通り

明治20(1887)年に完成した眼鏡橋の海軍第一門から和庄村十文字新開(現在の本通り九丁目付近)に至る国道と、和庄村松垣谷の海軍監獄下から堺川、二河川をわたり川原石に通じる県道は、呉市の幹線道路としての機能を果たしていました。国道は「和庄大通」や「本通大通」と呼ばれ、道幅は広く、道の両側には並木の植えられた近代的な道路でした。これが現在の本通りです。

明治後期の本通りは、商店が建ち並び、呉市でもっとも賑わっていました。本通りに路面電車が開通すると、本通りと並行する中通りも賑わい始めました。本通りと中通り、この二つが呉市の繁華街となったのです。

大正11(1922)年になると、中通りは本通りに先立ってアスファルト舗装が施されます。さらに、電柱や街路樹の整備も進み、道の両側に半月型曲線アームの鈴蘭燈を設置。大正期に東京・銀座の街をぶらぶら歩くことを「銀ブラ」と呼んだように、中通りの街を歩くことを「中ブラ」と呼びました。中通りには、芝居小屋や活動写真館、飲食店、カフェー等の娯楽施設が建ち並んでいました。

本通りには大きな商店が軒を連ね、大正10(1921)年には、呉市初となるデパート「山下百貨店」が開店します。昭和初年にかけて、本通りと中通りは発展を競い合っていました。



呉四ツ道路 明治後期



市政三十周年記念大売り出し(中通り7・8丁目)
 (呉市文化スポーツ部文化振興課所蔵)昭和7(1932)年